

# ビグアナイド薬 と インスリン抵抗性改善薬

## ビグアナイド薬

肝臓での糖新生を抑制が主作用とし、その他筋組織でのインスリン抵抗性の改善作用や糖吸収を抑制する。

また、副作用として乳酸アシドーシス(症状:悪心・嘔吐、腹痛、下痢、倦怠感、筋肉痛、過呼吸など)に注意が必要である(まれであるが)。腎排泄薬剤であるため腎機能障害のある患者には注意が必要。

肥満患者に有効。

### 代表薬

ブホルミン

メトホルミン

## インスリン抵抗性改善薬

インスリン受容体に作用インスリン抵抗性を軽減する。

アディポネクチン値(脂肪細胞より分泌される分泌蛋白質で、インスリン感受性の亢進、動脈硬化抑制、抗炎症、心筋肥大抑制などがある。)を上昇させる作用がある。

主な副作用として、心不全の増悪、浮腫などがある。

### 代表薬

ピオグリダゾン

おまけ

アディポネクチンとは

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%9D%E3%83%8D%E3%82%AF%E3%83%81%E3%83%B3>

参考資料:治療薬マニュアル2006 医学書院

処方わかる医療薬理学2004-2005 中原 保裕 Gakken

今日の治療薬2007 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 南江堂

薬局 増刊号 病気と薬の説明ガイド2006 南山堂

薬局 増刊号 病気と薬の説明ガイド2007 南山堂

薬理学 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 廣川書店

薬剤師のための服薬指導ガイド 第2版

和田 攻 朝長 文彌 株式会社 文光堂